

27年8月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 8月1日～ 27年8月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は11社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/8月	9月	10月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 6.3	△ 37.5	△ 12.5
	マツ	△ 62.5	△ 62.5	△ 56.3
	広葉樹	△ 15.0	△ 35.0	△ 30.0
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	△ 18.8	△ 12.5
	マツ	△ 31.3	△ 37.5	△ 37.5
	広葉樹	△ 5.0	△ 5.0	0.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 37.5	△ 43.8	△ 37.5
	マツ	△ 68.8	△ 56.3	△ 50.0
	広葉樹	△ 37.5	△ 57.5	△ 47.5

・チップ用国産原木の入荷は、3ヵ月連続して減少。

・チップ用国産原木の消費は、広葉樹の10月が横ばいなのを除いて、3ヵ月連続して減少。

・在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/8月	9月	10月
スギ・ヒノキ	27.8	11.1	11.1
マツ類	16.7	11.1	11.1
広葉樹	18.2	9.1	9.1

・チップ用国産原木の購入価格は総じて強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・N材の動きが良くないのでL材を取り扱う業者が出て来た。但し、L材の立木不足である。今月は休みが多いので、消費もやや減少。在庫は、予定外の現場からの出材があり、少し増加（東北）。

・広葉樹は、天候は回復したものの酷暑のため材料の入荷が減少気味。針葉樹は季節的要因により、伐採は少ないため入荷が減少。在庫は減少（東北）。

・発電に供給している原木を同条件で購入することで一旦在庫となった。消費は順調であるが、仕入が低調なため供給は増やせない状況。一時的に高い原木の購入を行い、在庫がその分増えた。ただし、翌月には全量使い切ることとなる（中部）。

・仕入は変動なし。8月は広葉樹チップの増産予定。在庫は変動なし（中国）。

・伐採時期が良くないこと及び住宅着工が良くないことで、A,B材の使用減にてC材出材減。消費は原木不足にて減少見通し。仕入減少で在庫減（四国）。

・梅雨明け後天気が良く、雑木伐採の現場も進んでいく。スギ・ヒノキC材も林道が好天で改善し出材は増えそう。7月までに、工場改修のため減産していたが、8月から再開し、徐々に増産の予定。秋には生産効率も上がる。減産で在庫増加していたが、再開とともに在庫は減少予定（九州）。

・スギ仕入は低調に推移。広葉樹は天候回復で原木の荷動きに期待したい。スギの消費は注文に応じて出荷、広葉樹は低調に推移（九州）。

(原木価格)

・素材不足により強含み（東北）。

・原料不足のため上昇気味（東北）。

・バイオマス発電の原木買取価格が浸透しており、安値で購入は不可能な状況（中部）。

・変動なし（四国）。

・木質バイオマス発電の影響で、原木ジリ高、そろそろ天井か（九州）。

・今の所、横ばいで推移の見通し。

27年8月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/8月	9月	10月
生産 動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	マツ類	△ 37.5	△ 43.8	△ 43.8
	広葉樹	△ 5.0	△ 20.0	△ 20.0
出荷 動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 27.8	△ 22.2
	マツ類	△ 33.3	△ 38.9	△ 33.3
	広葉樹	△ 4.5	△ 18.2	△ 18.2
在庫 動向	スギ・ヒノキ	△ 50.0	△ 42.9	△ 35.7
	マツ類	△ 57.1	△ 57.1	△ 50.0
	広葉樹	△ 37.5	△ 31.3	△ 31.3

・木材チップの生産、出荷及び在庫は全品目で3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	27/8月	9月	10月
スギ・ヒノキ類	12.5	0.0	0.0
マツ類	6.3	0.0	0.0
広葉樹	5.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格は全品目で8月の強含みが、9月、10月は保合。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・お盆休みにより生産が落ちる。出荷はやや減少。在庫なし（東北）。
- ・生産は順調であるが、供給する材の確保が出来ず、生産は落ちることとなり、出荷も減少した。製紙各社の需要は大きい、原木が集まらず、供給が出来ない状況（中部）。
- ・8月は広葉樹チップは増産の予定、在庫は変動なし（中国）。
- ・燃料用安定、製紙・ボード用原木入荷不足にて生産・消費は減少。在庫は燃料用やや減少、製紙・ボード用減少（四国）。
- ・製紙用の需要は旺盛、出来るだけ生産する予定。工場再開で徐々に生産量も増える。燃料用は一昨年からの備蓄材を切削出荷中、予定通りの数量。在庫はなし（九州）。
- ・広葉樹は、低調に推移（九州）。

(木材チップ価格)

- ・対木質チップとの兼合いにより、値上げの可能性あり（東北）。
- ・材確保のため製紙会社1社から当月より買取価格の値上げを実施（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・変動なし（四国）。
- ・4月から変わりなし。スギ・ヒノキは、発電用と競合する製紙用価格がもう少し上がらないと安定供給できないのでは（九州）。